

# クローズアップ 石材加工メーカーの今

vol.08

## 少数精鋭のものづくり集団 を目指して、今やるべきこと

岡山県笠岡市 鳴本石材(株)

近年「日本の石」が大きく見直されている中、メイドインジャパンの確かな品質により国内加工メーカーへの再評価も進んでいる。全国各地で活躍する加工メーカーを取材する本企画に今回ご登場いただくのは、商社機能を備えた加工メーカーの鳴本石材(株)(岡山県笠岡市)。同社での取扱墓石は、仕入れ製品6割、自社加工製品4割という割合の中から、その4割の部分を中心に話を聞いた。

### 小売店支援に注力

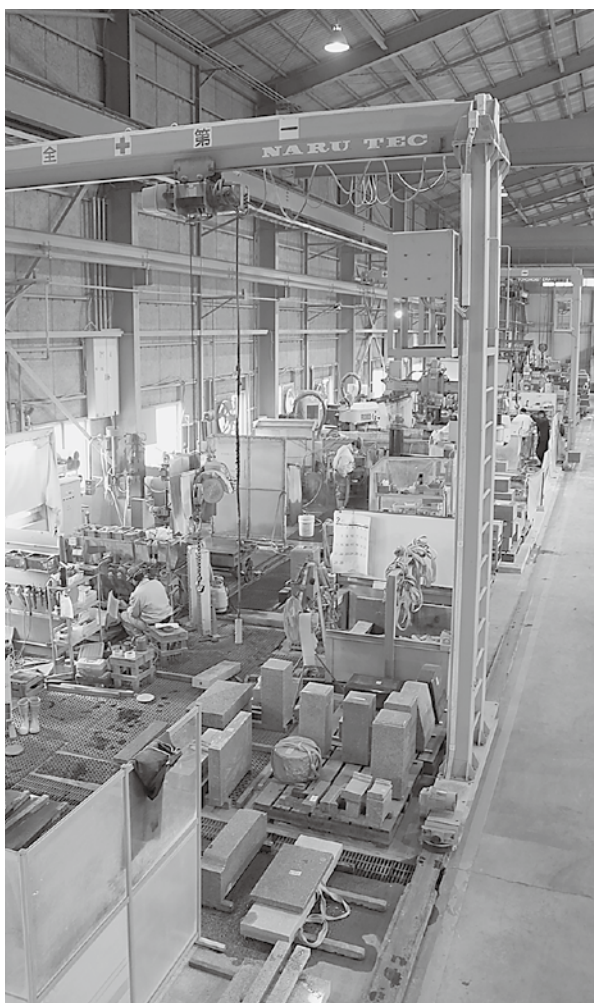
昭和46年、日本でも有数の石材産地の一つである北木産地の加工メーカーとして創業した鳴本

石材株式会社。時代の変化に対応して加工業のみならず、貿易商社としての機能も兼ね備えた業務形態をいち早く確立し、国内の銘石が持つ歴史や



鳴本石材(株)・本社工場内で働く同社スタッフの皆さん

ストーリーを前面に押し出した「日本銘石物語」、国産材を国内加工した純国産製品のブランド化を目指した「鳴本プレミアム墓石」など、小売店支援の為に数々の企画を打ち出している。「我々メーカーの役割とは、もちろん製品を供給することであり、墓石の市場が縮小し競争が激しくなっていく中で、小売店支援の必要性を感じています」と話すのは同社・二代目社長の鳴本太郎氏。



加工機械・設備の充実する本社工場内の様子。中国工場とともに同社工場では「日本の石」をメインに加工されている



工場外には大島石を中心とする国産原石が数多くストックされている



鳴本石材(株)・鳴本太郎氏

「価格競争より価値競争」もの消費から消費という言葉をよく聞くようになりましたが、我々の業界においても、より高付加価値な商品やサービスを提供していく必要があります。我々メーカーも、単に製品を供給するだけではなく、消費者目線の付加価値を追求することで、小売店様の販売支援に繋がっていったらと思っています。

### 国産材の可能性

何かと先行きを不安視し、厳しい話題の多い昨今の石材業界。しかし、悲観する必要はないと鳴本氏。

「確かに社会構造や家族形態の変化、価値観や死生観の多様化により、お墓以外の供養形態が次々と出現し注目を浴びていますし、我々の業界にとっては脅威でありま

す。しかし、批判を覚悟で申しますと、消費者にとっては選択肢が増えることはむしろ良いこと、歓迎すべきことだと思います。大切なのは、お墓というものの価値を改めて掘り下げ、定義づけし、しっかりと伝えていくことだと思います。そういった中で、国産材には大きな可能性があると

「我々加工メーカーとして墓石という商品に対して追求できる付加価値とは、素材、加工、デザイン、だと考えます。その中で『国産材』という素材の付加価値は、今後ますます注目されていくでしょう。さらに『国内加工』という加工の付加価値も併せていけば、我々国内メーカーにとっては、そこに希望とチャンスを見

出すことができます。中国製品のコストアップも追い風になるでしょう。国産材に可能性を見出し、未来に希望を抱く鳴本氏。その中で国産材の販売を促進していくに当たっての課題を聞いてみた。

「まずは価格ですね。いくら中国製品との価格差が縮まってきたと言っても、その差はまだ大きい。価格面を考えると外国材を選ばれてきた層にも国産材を選択していただくためには、価格に見合

う価値を分かりやすく伝えていかなければなりませんし、国内加工においては、いわゆる役物加工費を抑えるためのデザインの仕事や、技術革新なども必要になってくるでしょう。また、国産材に関する情報やその価値を消費者に向けてどうPRしていくかという点、安定供給や流通の体制など、販売を強化する上で再考しなければならぬ課題は少なくありません。我々メーカーは、こういった課題を正しく認識し、小売店様と一緒に知恵を出し合い、販売の協力体制を構築していかなければならないと思っています。」

### 国内工場の存続をかけて

この20年の間に、加工産地が日本から韓国、韓国から中国へと移行し、国内帰りの機運が高まる中で、これからが国内工場を残してきた意味が



取材時も慌たたく加工作業が進められていた



10代の若手職人も活躍中。技術の継承にも力が注がれている

「10数年前から国産材も中国で加工する流れが出てきたのを受けて、当社も平成17年に中国に自社工場を設立し、国産材を安定供給する体制を整えてきました。と同時に、国内工場ではその規模に見合った仕事量も減少していき、厳しい時代が続きました。その中でも、自動化や多能工化、作業工程の改善や新業務の開拓などを徹底した効率化、省力化を図り、雇用の維持、技術力の維持に努めてきました。」

「品質が良ければ売れる時代ではなく、価格が安いから売れる時代でもありません。製造部門と営業部門、そしてその先の小売店様も含め、製販一体となって取り組む必要があると思います。」

「当社は貿易商社という立場で外国製品の仕入れも行いますが、中国のメーカーという立場で現地でものづくりも行なっています。しかし我々の原点は北木産地のメーカーであり、厳しい時代の中でも社員一丸となって、メーカーとしての自信と誇りを失うことだけは無いよう、明るい未来を信じて乗り越えてきました。」

今はおかげ様で国内工場はほぼフル稼働の状態です。若手の職人も積極的に採用していますし、今は30代の若手を次期工場長に指名し、技術の継承、技術革新、更なる多能工化に取り組み、少数精鋭のものづくり集団を目指しています。引き続き取引先様のご期待にしっかりと応えられるよう、万全の供給体制を整えながら、メーカーのDNAを次代に継承して参りたいと思います。」

鳴本石材(株)・本社  
岡山県笠岡市茂平291  
8-23  
TEL 08651661414  
FAX 3022  
HP <http://www.narunoto.co.jp/>